

朝日新聞デジタル > 記事

「静かで安心」 藤枝にキャンプ場 滞在型まちおこしに

林国広 2023年9月21日 11時00分



「びく石山 静かな夜のキャンプ場（仮称）」のイメージ＝藤枝市の「びく石ふれあい広場」、東海ガス提供

【静岡】キャンプ人気を地域の活性化につなげようと、「東海ガス」（焼津市）は、藤枝市 瀬戸ノ谷にキャンプ場を着工した。静かで安心して楽しめるキャンプ場をめざして、来年3月にオープン予定。市が新陶芸センターや道の駅の設置を計画している地区で、体験型・滞在型のまちづくりが期待されている。

東海ガス営業推進課によると、「びく石ふれあい広場」（約9800平方メートル）を管理する市と土地の賃貸借契約を締結。広場全域を活用して「びく石山 静かな夜のキャンプ場」（仮称）を設ける。テントを置くためのサイト27カ所とコテージ5棟のほか管理棟やトイレを整備する計画だ。

コンセプトは「夜を静かに過ごせるキャンプ場」。利用者数や音楽再生機器の夜間の使用を制限し、利用者が静かな環境で眠れるようにルールを設定する。

また、盗難を防ぐためサイトのうち6カ所に荷物を保管するコンテナを設置。コンテナ上に設けられたデッキスペースから夜空を楽しむこともできる。

利用客は年間4500人から5千人を見込む。総事業費は約1億9千万円。このうち市は国の交付金制度を活用して、管理棟建設費などに5千万円を補助する。

キャンプ場エリアを含む瀬戸谷地区は、市が温泉施設に隣接した新しい陶芸センターや道の駅を2025年度後半にも整備する方針だ。この地区を中心に市は「ふじえだ陶芸村構想」を進めている。

市の担当者は「道の駅などの観光施設と一体的となる宿泊機能が整備されることで、体験型・滞在型のまちづくりを推進できる」と期待している。（林国広）